



台東区が目指すまちの姿

- 1 将来像・基本目標と将来イメージ
- 2 将来地域像
- 3 都市構造
- 4 土地利用の方針

1 将来像・基本目標と将来イメージ

本プランでは、基本構想と同様の「まちづくりの将来像・基本目標」を掲げるとともに、より具体的な方向性を示す「まちづくりの将来イメージ」を描き、これらの実現に向けたまちづくりを推進する。

■台東区のまちづくりの将来像・基本目標

〈将来像〉

世界に輝く ひと まち たいとう

住む人、働く人、訪れる人、すべての人々は、安全安心で多様性が尊重された社会の中で、希望と活力にあふれ、いきいきと活躍しています。

長い間、積み重ねられてきた歴史や、まちに息づく多彩で粋な文化は、台東区を輝かせる光として、人々の誇りや憧れであり続けています。

台東区は、「ひと」も「まち」も輝くことで、世界中の人々を惹きつけ、ともに更なる活力と魅力を生み出す「世界に輝く ひと まち たいとう」の実現を目指します。

〈基本目標〉

- あらゆる世代が生涯にわたって成長し輝くまちの実現
- いつまでも健やかに自分らしく暮らせるまちの実現
- 活力にあふれ多彩な魅力が輝くまちの実現
- 誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまちの実現

■台東区のまちづくりの将来イメージ

世界に輝く **魅力**が
あるまち

伝統とチャレンジ
が生み出す**活力**が
あふれるまち

江戸から続く
多様性があるまち

みどりがまちに
溶け込む
快適なまち

いとなみを支える
安全安心なまち

■具体的なまちづくりの将来イメージ

台東区のまちづくりの将来イメージ

世界に輝く
魅力が
あるまち

- 台東区の特徴である歴史や文化、多彩なまちの個性が活かされ、多くの人々が魅力を感じるまちとなっている。
- こころの豊かさへの志向に対応し、生涯学習、スポーツなど台東区のまちの資源を活用した様々な活動の場や舞台が用意されている。
- コンパクトな都市構造と交通利便性を強みに、複合的な土地利用を活かした、「歩いて暮らせるまち[※]」が形成されている。

伝統と
チャレンジが
生み出す
活力が
あふれる
まち

- 上野、浅草をはじめとする区内の拠点において、特徴と活力のある諸機能の集積により、居住者、通勤・通学者、来街者等の交流が活発化し、賑わいが絶えないまちとなっている。
- 新たな試みにチャレンジできる環境が、既存の産業資源や人材を活かしたまちづくりによって実現され、都市の活力が維持、創出されている。
- 地域のニーズに応じた機能が適切に配置されるとともに、誰もが移動可能な環境が整備され、行きたい場所があるまち、行きたい場所に行けるまちが形成されている。

江戸から続く
多様性が
あるまち

- 江戸から続く多様な地域の個性と融合して、職住近接など様々な生活様式やワークスタイル、価値観が展開され、ユニバーサルデザインのまちが形成されている。
- 歴史・文化を活かしつつ、時代に対応した新たなコミュニティも生まれ、子ども、若者から高齢者まで多様な世代が交流し生活している。
- 国際観光都市として誰にもやさしいまちづくりが進められるとともに、居住環境と観光の調和が図られている。

みどりが
まちに
溶け込む
快適なまち

- 上野恩賜公園、不忍池、隅田川などの多様な生物を育む貴重な自然環境や身近な水・みどりが生活に溶け込んだ、潤いのあるまちづくりが進んでいる。
- 台東区ならではのまちの成り立ちを継承し、歴史・文化資源や祭りなどの賑わいや、水・みどりなどの自然と調和した景観が形成されている。
- 地球環境、資源循環に配慮し、低炭素まちづくりを推進し、ヒートアイランド現象の抑制、環境との共生が進められている。

いとなみを
支える
安全安心な
まち

- 大地震や集中豪雨等の様々な自然災害に備えた、まちづくりと一体となった災害対策が進み、ハード、ソフトが連携し、まちの安全性が高まっている。
- 地域性を反映した防災まちづくりが進み、「自助」「共助」「公助」が一体となって安全に暮らし、滞在できるまちが形成されている。
- 利用実態にあわせた効率的な道路空間の活用により歩行者空間の整備・確保が進み、歩きやすいまちとなっている。

※歩いて暮らせるまち

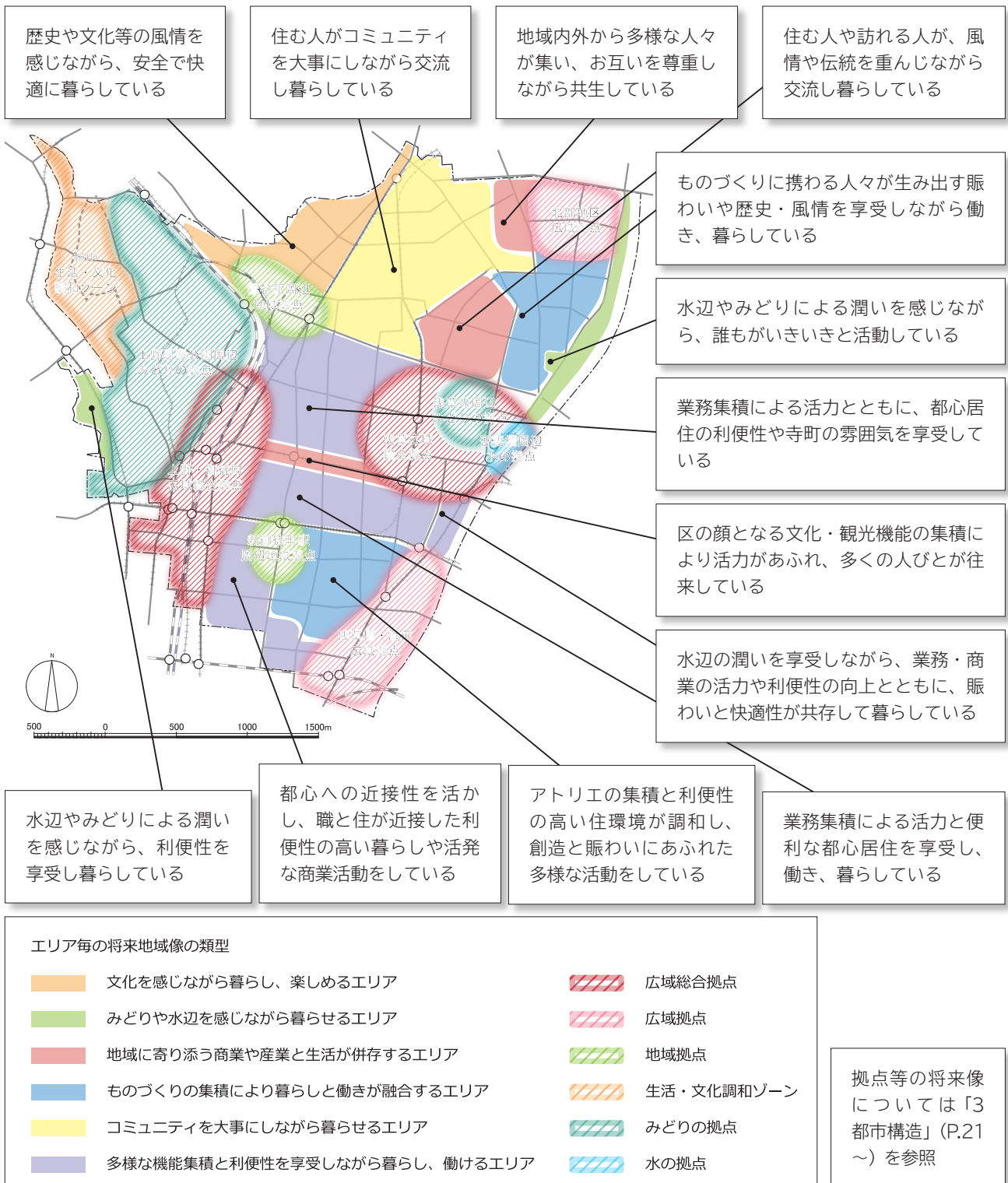
生活に必要な施設・機能の身近な場所への配置や公共空間のバリアフリー化、公共交通の充実等により、自動車等に過度に依存せずに誰もが移動しやすいまち。

2 将来地域像

(1) 基本的な考え方

台東区のまちづくりの将来像実現のため、それぞれの地域における、ひとのいとなみのビジョン（=将来地域像）を例示し、魅力あるまちづくりを進める。

■各エリアの将来地域像



3 都市構造

(1) 基本的な考え方

台東区のまちづくりの将来像実現のため、まちの成り立ちや生活を背景とする地域特性を活かしながら、目指すまちの骨格を明確にし、都市構造の形成に向けたまちづくりを進める。

都市構造は、区外との広域的な結びつきも考慮し、様々な機能の集積を図る「都市拠点」と、これらの都市機能を連携・連担させ拠点間の交流をさらに促進する「都市軸」に加え、都市の魅力と潤いの集積がある「地域資源」において、多様な魅力に満ちた活動を支える舞台を形成する。

(2) 都市拠点・都市軸

①都市拠点

台東区の個性と魅力を生み出し、様々な機能が集積する地区を「都市拠点」とし、都市の活力と賑わいを高め、さらに充実させる。

拠点形成の方向性を明らかにするため、各「都市拠点」の役割や規模にあわせ、「広域総合拠点」、「広域拠点」、「地域拠点」に区分する。

②都市軸

機能や性格が異なる「都市拠点」を互いに結び、補完しあう「都市軸」を形成し、個性豊かな台東区の賑わいや魅力の連続性をさらに充実させる。

都市拠点の結びつきの方向性を明らかにするため、各「都市軸」の役割や規模にあわせ、「広域総合連携軸」、「広域連携軸」、「拠点連携軸」に区分する。

(3) 地域資源

①特徴的な資源の集積

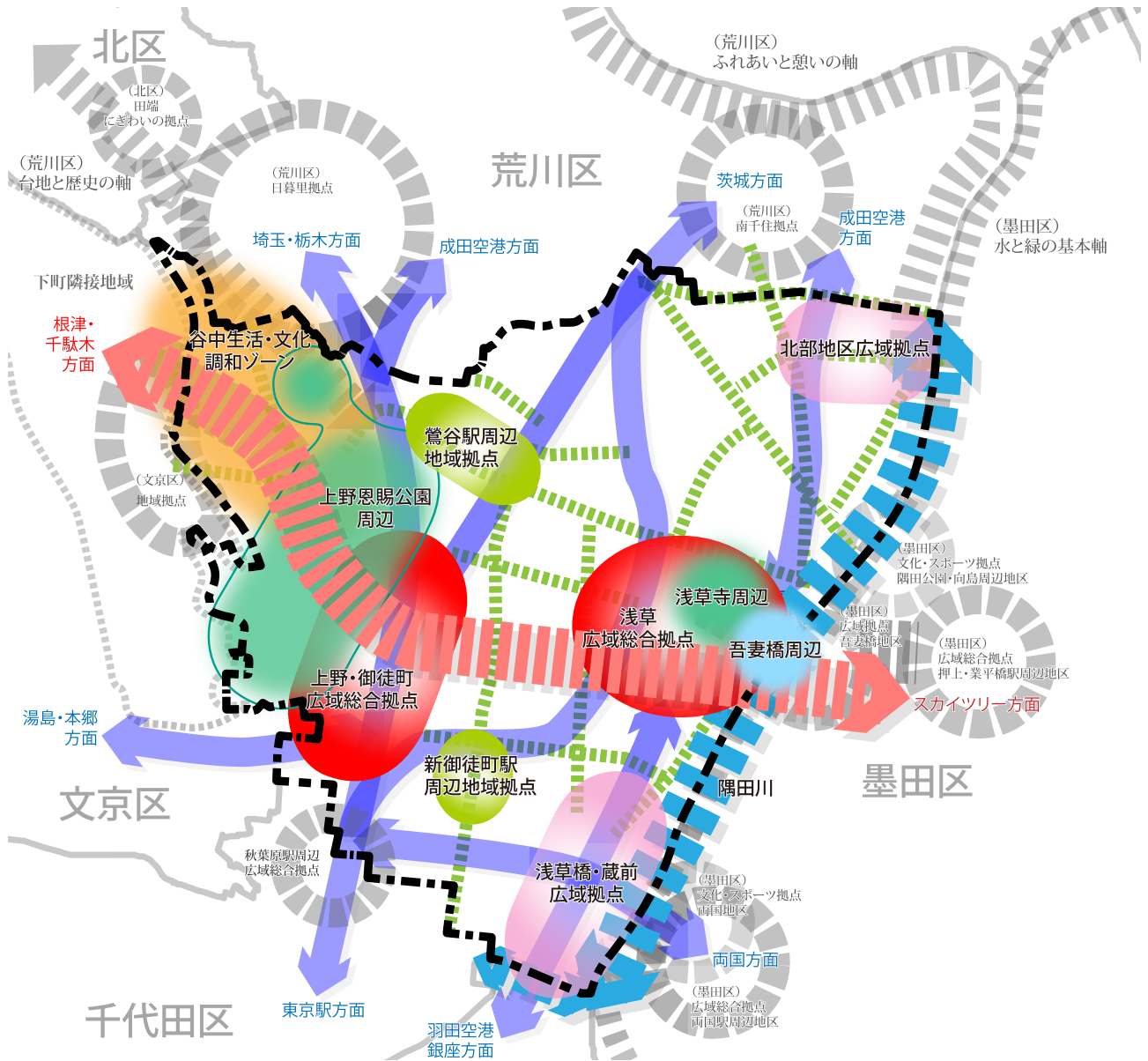
区内でも特徴的な地域資源が複合的に集積する谷中エリアについては、それらの資源を維持・保全、活用し、魅力的なまちづくりを推進するため、「谷中生活・文化調和ゾーン」とする。

②水とみどり

歴史・伝統や自然（みどり・水辺等）を活かし、人々に潤いとやすらぎを与える拠点を「みどりの拠点」・「水の拠点」とし、また水辺空間の連続性や周辺地区との結びつきを「水とみどりの連携軸」とする。

3 都市構造

■都市構造図



【都市拠点】		【地域資源】	
	広域総合拠点	(特徴的な資源の集積)	
	広域拠点		生活・文化調和ゾーン
	地域拠点	(水とみどり)	
【都市軸】			みどりの拠点
	広域総合連携軸		水の拠点
	広域連携軸		水とみどりの連携軸
	拠点連携軸		

(4) 都市拠点・都市軸及び地域資源の役割

●都市拠点・都市軸

【都市拠点】

分類	名称	役割と将来像
広域総合拠点	上野・御徒町 広域総合拠点	<ul style="list-style-type: none"> 歴史と産業が調和した多様な商業・業務機能、文化機能等が集積する上野駅周辺から御徒町駅周辺、秋葉原駅周辺地区において、国際競争力を有する文化・芸術を創造発信する拠点。 上野恩賜公園周辺のみどりの拠点や浅草広域総合拠点との連携をはじめとした、地域内外の回遊性向上により国内外からの来街者を受け入れるまちの形成を図る。
	浅草 広域総合拠点	<ul style="list-style-type: none"> 日本を代表する歴史や伝統・文化、商業、娯楽等の機能を有する浅草寺周辺からかつぱ橋道具街周辺地区において、国際観光都市浅草にふさわしいまちづくりを進める拠点。 個性的な商店街の集積による賑わいの連続性を確保し、隅田川の水辺空間等を活かした国際観光拠点の形成を図る。
広域拠点	浅草橋・蔵前 広域拠点	<ul style="list-style-type: none"> 浅草橋駅周辺から蔵前駅周辺地区と、隅田川・神田川沿川地区において、回遊性を向上し賑わいを創出する拠点。 職と住が調和したライフスタイルや地域産業の発展、新たな産業集積による「ものづくり」のまちの魅力を発信する拠点の形成を図る。
	北部地区 広域拠点	<ul style="list-style-type: none"> 日本堤～清川～橋場地区において、賑わい・交流の場を創出する拠点。 旧東京北部小包集中局跡地や既存ストックの活用、都市機能の誘導による賑わいの創出と、公共交通の利便性の強化により、地域全体の生活利便性の向上に資する拠点の形成を図る。
地域拠点	鶯谷駅周辺 地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> 鶯谷駅周辺地区において、閑静で落ち着いた生活圏を支えるコミュニティの核となる生活と交流の拠点。 旧坂本小学校跡地の活用や鉄道駅のポテンシャルを活かした生活利便機能の集積や防災性の向上により、上野恩賜公園に隣接する地域の玄関口にふさわしい利便性・安全性の高い拠点の形成を図る。
	新御徒町駅周辺 地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> 新御徒町駅周辺から鳥越地区において、防災性及び回遊性の向上により、賑わいを創出する拠点。 既存の地域商業の活性化とあわせて、周辺地域との回遊性の向上により、交通結節点にふさわしい利便性の高い拠点の形成を図る。

【都市軸】

分類	役割と将来像
広域総合連携軸	・ 上野・御徒町広域総合拠点と浅草広域総合拠点や隅田川を結ぶ浅草通りと上野恩賜公園や谷中生活・文化調和ゾーンを一体的に結ぶ軸として、さらに隣接区拠点やスカイツリー周辺方面との連携を強化し、世界に開かれた東京の玄関口としての利便性や賑わいの連続性を高める歩行者主体の都市空間を形成する。
広域連携軸	・ 広域総合拠点・広域拠点や隣接する拠点を結ぶ鉄道等を広域連携の軸として位置付け、隣接する拠点とその後背地に留まらず、国内、海外とのネットワークを意識したひと・ものの交流を担うことで、広がりのある都市的な賑わいを形成する。
拠点連携軸	・ 拠点における商業等の賑わいの形成や暮らしの利便性の向上を図ることができるよう、人々の交流を促し、まちの歴史・伝統やみどりを感ずるネットワークを形成する。

●地域資源

【特徴的な資源の集積】

名称	役割と将来像
谷中生活・文化調和ゾーン	・ 谷中地区において、歴史、文化、みどりの資源と商店街、路地、坂などの特色を活かし、個性ある生活スタイルを支えるゾーンの形成を図り、上野恩賜公園周辺や隣接区の拠点と連携してまちづくりを進める。

【水とみどり】

分類	名称	役割と将来像
みどりの拠点	上野恩賜公園周辺	・ 歴史や世界的な文化・芸術施設の集積を活かし、都市の貴重な自然空間である上野恩賜公園、不忍池、谷中霊園等のオープンスペース機能を強化したみどりの拠点を形成する。
	浅草寺周辺	・ 浅草寺周辺のみどりを保全し、隅田川と調和するみどりの拠点を形成する。
水の拠点	吾妻橋周辺	・ 吾妻橋周辺・言問橋周辺に舟運の結節機能を含む拠点形成を図り、隅田川対岸の（墨田区）押上・業平橋周辺地区のまちづくりと連携し、舟運を活かした賑わいの親水空間を形成する。
水とみどりの連携軸	隅田川 神田川	・ 隅田川や神田川をはじめとする河川とその周辺の水辺空間は、舟運等による周辺地区との連携強化や、連続性の高い水辺空間の形成を図る。

4 土地利用の方針

(1) 基本的な考え方

台東区のまちづくりの将来像実現のため、まちの成り立ちや生活を背景とする地域の個性を活かしながら、望ましいまちの利用方法（＝土地利用の方針）を明確にし、魅力ある土地利用の誘導に向けたまちづくりを進める。

●多様な機能が複合した台東区らしい土地利用の誘導

- ・商業、業務、作業所、住宅等の様々な機能が複合しているまちの特性を活かし、多様な人々が暮らし活動し続けられるよう、複合かつ多様な土地利用を誘導する。
- ・住みやすく働きやすい市街地の環境や街並みを形成するため、地域の個性を活かした土地利用を誘導する。
- ・若者から高齢者、単身、ファミリー層まで、多様な住まい方に対応する、多様な生活・住環境の充実を図る。
- ・台東区のまちを形成してきた職と住が共存するまちの特性を活かし、新たな産業や職住のライフスタイルの変化に応じた、産業振興施策と連携した土地利用を誘導する。

●個性ある拠点形成と機能集積による活力のあるまちづくり

- ・上野・御徒町広域総合拠点、浅草広域総合拠点では、歴史・伝統、文化・芸術等の資源を経済活動とともに活用し、個性ある拠点形成を図るための土地利用を誘導する。
- ・様々な機能集積や多様な人材を活かし、隣接区との土地利用の連続性も確保しながら、さらなる都市機能の集積を図る。

●歴史ある文化・自然資源と一体となった市街地環境の形成

- ・区内に点在する寺社等の歴史ある文化資源と上野恩賜公園や隅田川、不忍池等の都市の中の貴重な自然資源の保全と活用を推進する。
- ・それぞれの資源間の連携を強め、市街地でもこれらの文化・自然資源を身近に感じることができる、魅力と潤いのある市街地環境の形成を図る。
- ・長い年月を積み重ねて形成された街並みやみどりなどを活かし、風格あるまちの維持・向上を図る。

●安全・安心なまちを実現する土地利用の更新

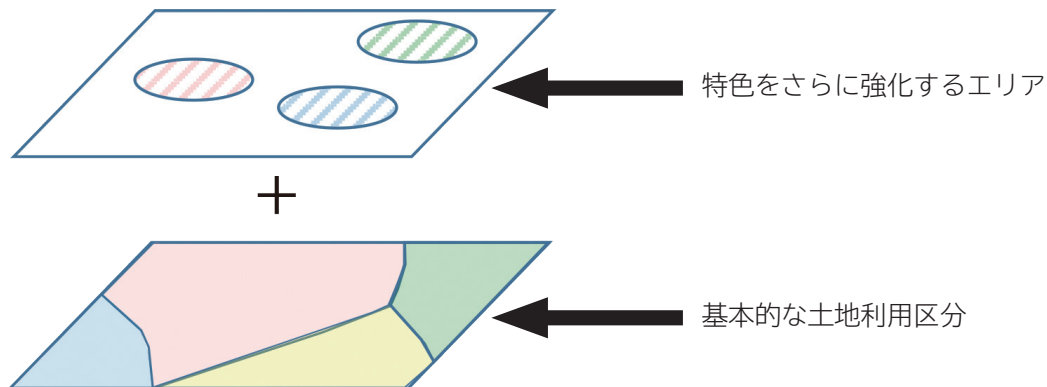
- ・地震などの災害に強く安全なまちの形成を図るため、老朽建物等の更新を促進し、地域特性や利用ニーズに応じた、安心して暮らすことができる土地利用を誘導する。
- ・木造住宅密集市街地などでは、道路などの都市基盤整備とあわせて建物更新を促進し、安全に暮らすことができる土地利用を誘導する。

4 土地利用の方針

(2) 土地利用の区分

各地域の特性とまちの連続性や生活・住環境の一体性等を踏まえ、基本的な7つの土地利用区分と、地域の特色をさらに強化するエリアにより、土地利用を誘導する。

土地利用の区分の考え方（イメージ）



①基本的な土地利用区分

● 商業・業務地

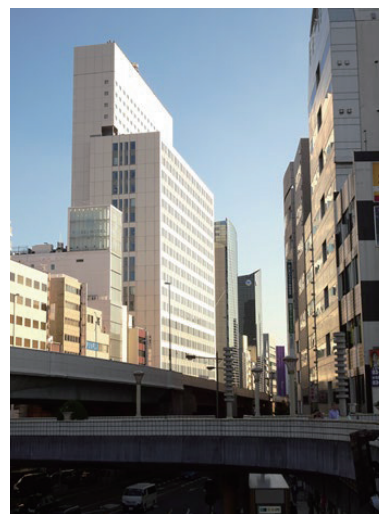
○広域的な集客が見込まれる台東区を代表する商業地や、多様なビジネス・産業が展開される業務地では、商業・業務機能を中心とした各種機能の拠点性を高め、大規模店舗と個店等が相乗効果を発揮する賑わいに加え、イノベーションや起業を促進する土地利用を誘導する。

また、各地区の特徴的な機能集積や個性を活かし、地域産業などとも連携した活力を創出する。

○駅周辺や主要な幹線道路沿道を中心に、連続した賑わいと多様な機能が集積する拠点では、土地の高度利用を図り、業務機能と文化・芸術機能や観光機能との融合など、地域の特性を活かした機能集積を図る。



個性のある商店街の集積



幹線道路沿道の高度利用

● 近隣商業地

- 近隣商業地では、多様な住機能と調和したコミュニティ形成や、地域の生活を支える土地利用を誘導する。
- 建物の低層部においては、多様なニーズに対応した商業店舗や飲食、サービス業などの生活に欠かせない機能を確保し、生活利便性を高める土地利用を誘導する。



コミュニティや地域の生活を支える土地利用



● 沿道機能集積地

- 広域総合連携軸、広域連携軸及び拠点連携軸に位置付けられた幹線道路沿道では、その立地条件を活かし、商業機能や業務機能、生活利便性を高める機能など、様々な用途が共存した土地利用を誘導する。
- 周辺環境や敷地条件等を踏まえた、土地の高度利用を図る。



商業機能と居住機能の共存

4 土地利用の方針

● 都市型複合市街地

○都市計画道路などの幹線道路に囲まれた地区の内側などで店舗、事務所、作業所等との併用住宅が立地する地域では、各機能の共存・調和を図りながら、地域特性を活かした土地利用を誘導する。

○敷地や建物の共同化等により土地の有効利用を進め、オープンスペース・みどりの創出や狭あい道路の拡幅等による生活・住環境の向上を図り、主に中高層の建物の立地を誘導する。



都市型複合市街地のイメージ

● 都市型住宅地

○区画道路は整っているものの、住宅が密集している地域では、防災性の向上を図りながら住宅を主体とした土地利用を維持し、安全性や利便性等の向上による質の高い生活・住環境の形成を図る。

○老朽建物の建替え等による市街地の更新とあわせて、建物の共同化等により土地の有効利用を進める。

● 生活・文化調和住宅地

○みどりや路地空間の残る地域では、主に中低層の住宅主体の土地利用を基本とし、みどり豊かな住環境の維持・向上を図る。

○道路整備、住宅の不燃化など防災性の向上を図りながら、歴史ある文化資源や路地空間等の風情を活かした良好な住宅地の形成を進める。



生活・文化調和住宅地のイメージ

● 水・みどり

- 寺社や公園等は、歴史ある文化資源や貴重な自然資源であり、環境や景観にとっても重要な要素であるため、これらを維持・保全・活用するとともに、周辺のまちとの一体性・連続性を確保する。

②特色を強化するエリア

● 独創的な賑わいエリア

- 上野駅・御徒町駅や浅草寺、浅草橋駅、鶯谷駅、かっぱ橋道具街などの周辺では、特徴的な商業集積の活用や宿泊機能の誘導等の来街者の受け入れ体制の強化等により、独創的な賑わいを生み出す土地利用を推進する。
- 北部地区（日本堤・清川・橋場）では、地域特性を活かしながら交通利便性の向上を図るとともに、共生のまちづくりを育む土地利用を推進する。

● 都市機能集積エリア

- 上野駅周辺や浅草駅周辺は、文化・観光の拠点と連携した商業・業務機能の拡充に加え、多様な機能の誘導を図り、魅力的で活力のある都市機能の集積を図る。

● 歴史・文化エリア

- 谷中や上野恩賜公園を中心とした地域及び浅草寺周辺では、歴史・文化資源を保全・活用した土地利用を推進するとともに、周辺の市街地においても、それらと調和・連携した機能誘導を図る。







● ものづくりエリア

- 作業所と住宅等が複合した今戸周辺や「カチクラ」エリア等では、ものづくりのまちとしての既存の産業集積を活かし、職住が共存した土地利用を図る。
- 空き家・空き室等の既存ストックを活用し、ものづくりに携わる人々が活躍できる土地利用を誘導し、新たな産業の創出や産業集積によるまちの活力向上を図る。

4 土地利用の方針

■ 土地利用方針図



基本的な土地利用区分		特色を強化するエリア	
	商業・業務地		独創的な賑わいエリア
	近隣商業地		都市機能集積エリア
	沿道機能集合地		歴史・文化エリア
	都市型複合市街地		ものづくりエリア
	都市型住宅地		
	生活・文化調和住宅地		
	水・みどり		